

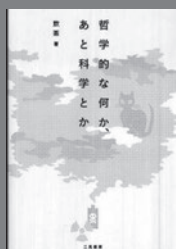
# 鱗祭

## 第五弾

拡大版  
目から鱗



「芸術の秋」にぴったりの作品を紹介する鱗祭も、今年で第五弾になりました。今回は本や漫画、CDなど全10作品を取り上げています。是非お気に入りの作品を見つけてみてください。



はみだし  
すてーじ

元アナウンサー柗さんのTwitterを見てください。京都の夏にやられていく様をリアルタイムで観測できます。(教・院 とっと)  
⇒京都の夏、規格外すぎる (秋号が出る頃には涼しくなっているはず……。;編)



かに のおすすめ本

## 哲学的な何か、あと科学とか 飲茶



記事執筆者のコメント

日常生活で浮かぶ些細な疑問について、一度立ち止まって考える機会をくれる本。考え始めると止まらなくなるので、暇なときに読むのがおすすめ。

「哲学」や「科学」は難しい用語をたくさん使っており、何かとつきにくい学問である、という印象を受ける人もいるのではないだろうか。しかし、この本は難しい用語を使わずに、哲学や科学についてよく知らない人でも興味を持てるようなテーマを選んで書かれている。正に「哲学超入門書」といえるだろう。

例えば、この本で取り上げられている思考実験のテーマとして、「どこでもドア」というものがある。「どこでもドア」は言わずと知れた藤子・F・不二雄氏によって描かれた漫画「ドラえもん」に登場するひみつ道具であり、行きたいと思った場所にどこへでも一瞬で行けるという便利な道具である。この思考実験は「どこでもドア」の開発に成功した近未来という設定である。ただしこれは原作通りどこへでも行けるわ

けではなく、あらかじめ設置されたドアを行き来することができるようになってきている。その仕組みは、ドアを通った人間を一瞬で分解し移動先のドアで通った人間を分子レベルで完全に再現する、というものである。ドアを通った人間はドアを通る前と後では体の状態も脳の記憶も全く同じであるとする。果たして、「どこでもドア」を通った人間は通る前と後で同じ人間だと言えるだろうか……？

この話は、一見哲学とは関係ないように思えるだろう。しかし、これは人間の脳における自由意志の有無や、自意識の発生するタイミングや条件についても関係してくるのである。他にもこの本には身近なテーマを用いて様々な話が書かれている。この本を読めば、遠い世界の話だと思っていた哲学や科学の話がより身近に感じられるはずだ。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



ベリートマト のおすすめ本

## 東京大学 「ボーカロイド音楽論」講義

鮎川ばて



記事執筆者のコメント

こんな講義が大学にあったらいいのにな、と思って手に取ったら大当たりでした。特にインターネット人間はQOLが上がると思うのでぜひ。

21世紀に始まり、若者を中心に広まったボーカロイド（通称ボカロ）。機械の歌声は黎明期のインターネットの波に乗り、多くのファンを獲得するに至った。今やボカロはインターネットを超え、街頭ビジョンやTVのBGMなどでもその特徴的な歌を聞くことができる。しかし、時にはファンですら自嘲的にボカロを語ることがある。人前で「ボカロが趣味です」と言いにくい人は少なくないだろう。本書はそうした悲しい自嘲に別の視点を与え、ボカロ文化の根源に光を当てるものだ。

本書ではボカロ黎明期から現代まで、そしてヒット曲からマイナー曲まで、実際に投稿されたボカロ曲を取り上げる。曲の歌詞やリズムをジェンダー論、精神分析、記号論など幅広い視点から分析する。筆者が導き出す解釈を読んでから曲

をもう一度聴くと、世界が広がったような感覚が得られるはずだ。「この本の中には、あなたの声があります。あなたの小さな声に、呼応する言葉がきっとある」と筆者はプロローグで語る。本書は、自分を代弁してくれる音楽や言葉に出会うきっかけになるだろう。嬉しいことに、本書は実際に東京大学で行われた講義を書き起こした形になっており、普段カタイ本を読まない人でも取り掛かりやすい。文章中で取り上げられた曲をお供に読み進めることだってできる。筆者自身もボカロ制作者であり、インターネット文化に寄り添ったポップな語り口が魅力的だ。

新しい音楽を知りたい人はもちろん、ボカロを窓口に学問にアクセスしたい人、自分のお気に入りのボカロを開拓したい人にオススメの一冊である。

はみだし  
すてーじ

関西人はなぜUSJをユニバと言うのですか？  
⇒ユニバの方が言いやすいからですかね

(理・4 院試激落ちくん)  
(私はユニバ派です；編)



海条 のおすすめ本

## オペラ座の怪人

ガストン・ルルー  
訳 平岡敦

『オペラ座の怪人』というタイトルを聞いたことがある方は多いだろう。何度も舞台化、映画化された作品だが、文章で読むと一味違った魅力が味わえる。19世紀パリのオペラ座では日々奇怪な事件が起こり、ファントムの仕業だとされていた。ファントムへの対応に嫌気がさしたオペラ座の元支配人はその座を譲るが、新たな支配人はファントムの存在を全く信じようとしない。一方オペラ座では、怪人の存在を裏付ける出来事が起こり続けていた。プリ・マドンナの歌声の変化、大道具係の死、そしてシャンデリアの落下。また、歌姫クリスティーヌは常に何かに気を取られた様子を見せる。

彼女は音楽の天使から歌の稽古を受けていると話す、音楽の天使はファントムと呼ばれる者と同一人物であった。ファントムは神出鬼没で声も姿も変幻自在。クリスティーヌ



### 記事執筆者のコメント

劇団四季が大阪でミュージカルを上演中。心に残る歌と圧倒される仕掛けの数々は、原作の魅力余すことなく伝える。両者を比較するのも最高の楽しみ方!

を愛する彼は、凄腕建築士かつ奇術師でもあり、オペラ座の地下に造った精巧な空間に彼女を連れ込もうとする。地上と地下をつなぐ鏡、訪問者を拒む湖や拷問の部屋。一方、クリスティーヌの幼馴染ラウルも彼女を愛し、ファントムとの戦いを決意する。大好きな歌を教えてくれる怪人と優しいラウルの間で揺れ動き、板挟みに苦しむクリスティーヌ。彼女を取り戻すため、地下に乗り込むラウル。彼は怪人の罠にはまらず無事クリスティーヌを連れ戻せるのか。男性二人の対決はスリル満点だ。

怪人は何者なのか。クリスティーヌはどちらの愛を選ぶのか。技巧を凝らしたオペラ座を舞台に、愛するがゆえに生じる哀しみや苦しさがふんだんに描かれた、甘く切なくでもとても素敵な『オペラ座の怪人』をぜひ。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



月影 のおすすめ本

## コーヒーが冷めないうちに

川口俊和



### 記事執筆者のコメント

『この嘘がばれないうちに』や『思い出が消えないうちに』など続編も出版されており、また映画化もされています。気になった方はそちらもぜひ。

過去に戻ることができるという噂のある喫茶店・フニクリフニクラ。そこで繰り返られる人々の物語を描いた心温まる作品となっている。なかなか空かないある特定の席に座ること、過去に戻れるのは注文したコーヒーがカップに注がれてからそれが冷めてしまうまでであること、コーヒーが冷めないうちに飲み干さないと過去から戻って来られなくなること、そして過去で会うことができるのはフニクリフニクラを訪れたことがある人だけであること。そんな厳しいルールを守らなければ過去に戻ることにはできない。それでも過去に戻りたいという客が日々喫茶店を訪れる。

過去に戻る際のルールはもう1つある。それは、過去に戻っても過去に起きたことは変えられないというもの。過去を変えられないなら過去に戻っても意味がないと思われ

るかもしれないが、それは違う。過去を変えることはできないが、未来はいくらでも変えられる。そのことこそが、この作品に込められたメッセージであろう。過去に戻る術のない現実世界を生きる我々も、そんな心持でいたいものである。

恋人との別れ話をやり直したいキャリアウーマン、若年性アルツハイマーを患い記憶が消えていく男性、亡くなった妹に会いたい常連客、自分の余命が短いことを知り成長した娘に会いたいと願う母親（実は過去に戻れるだけでなく未来へ行くこともできるのです）。様々な登場人物にまつわる心温まり、時に涙をこぼさずにはいられない感動の一冊。寝る前のベッドで読んで、自分だったらいつに戻って誰に会って何をしたいか想像しながら眠りにつく。そんな楽しみ方はいかがだろうか。

はみだし  
すてーじ

秋号を読んでいる私はちゃんとフル単できているのでしょうか…(絶賛テスト期間中)  
⇒前期で落としても後期でとればいいじゃない

(医・2 るな)  
(そういう問題ではない;編)



偃月 のおすすめ本

## 僕が愛したすべての君へ

乙野四方字

人間誰しもあの時こうしておけばよかったとか、あの時違う選択をしていたのなら今どんな生活を送っているのだろうかとか、思うことがあるのではないだろうか。もし別の世界の自分と入れ替わることができるならあなたは何をやるだろうか？ この作品では理系的な、研究者的な切り口でこの問題と対峙していく。

この物語は高崎暦の半生を描いた作品だ。並行世界の存在が証明され、些細な決断の違いにより生み出された並行世界へと無意識に、そして無自覚に行き来していることに人々が気づきはじめる、そんな時代。母親と共に暮らす暦は地元の進学校に進学する。孤立ぎみだった暦だが、そこで瀧川和音というクラスメイトに出会う。突然声をかけてきた和音は自分が85番目の並行世界からパラレル・シフトしてきたこと、



記事執筆者のコメント

この作品は『君を愛したひとりの僕へ』という作品と対になっており、どちらから読んでも楽しめる作品になっている。10月に映画も公開されるのでぜひ。

そして、その世界では暦と和音が恋人同士であると告げる。この出会いにより、暦の人生は大きく変わっていくことになる。

並行世界の確認により、他の自分がどのような境遇で暮らしているかわかるようになる一方で、見えてしまうが故の問題に取り組むことになる。果たして並行世界の自分は自分なのか、ある一時、違う選択肢を選んだ自分は自分なのか。そしてあの時この選択をした自分と入れ替わりたい。そのような問題に人々は苦悩していく。

「……可能性ごと、全部愛する」

入れ替わりが起こってしまうがゆえに、起こせるがゆえに起こる人間ドラマ。その描写は並行して流れるもう一つの物語が絡み合うことで一気に深みを増していく。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



タルトタタン のおすすめ本

## 三日間の幸福

三秋健

もし人の寿命に値段をつけるとしたら、一体どれくらいになるだろうか。そして、もしあなたの寿命を買い取りたいという人が現れたとき、あなたはどうするだろうか。

主人公はアルバイトをしながら大学に通う貧乏男子学生である。バイト中に倒れ、病院にかかりバイトを休まなければいけなくなった主人公は、手元のお金がなくなってしまう。困った主人公はCDと本を売りに行くのだが、そこで寿命を買い取る店の話を聞く。その話を疑いつつも教えてもらった場所へ向かうと、そこは本当に寿命を売れる場所だった。主人公は寿命を売り、残りの命は3ヶ月となってしまふ。寿命が残り1年を切った人には、自暴自棄となって問題を起こさないように監視員がつくことになっている。そこで主人公は監視員の「ミヤギ」と残りの人生を過ごしていく。



記事執筆者のコメント

後悔に溢れた世界の美しさを教えてくれる作品。作者自身のサイトで公開されている原案の小説や、コミカライズもあるのでそちらも読んでみてください。

寿命を売り払った主人公は「死ぬ前にやりたいことリスト」を作成し、それらを実行していく。その内容は「大学に行かない」「働かない」「ナルセと会って話をする」「ヒメノと会って想いを打ち明ける」など様々である。ナルセという人物は主人公の高校時代の友人で、ヒメノは主人公が10年来想い続けている人である。しかし、人と会うような内容のことは全くうまくいかない。何しろ、主人公は今の今までまともな交友関係を築いていなかったのに、今更人に頼ろうとしたのだ。そんな虫のいい話はないだろう。しかし、何もかもうまくいかなかった彼であっても物語の最後にとっても大事なものを見つける。果たして最後に彼に残ったものは何だろうか？ その結末はぜひ自分の目で確かめていただきたい。

はみだし  
すてーじ

入学当初は知らん人ばっかで不安やったけど、学部内でもサークルでも友達ができてとっても楽しいです！（理・1 北大西洋条約機構）  
⇒友達100人も夢じゃない  
（楽しい学生生活を送ってくださいね；編）



けいた のおすすめ本  
もうりよう はこ  
**煙 麴 の 匣**

京極夏彦

『煙麴の匣』は京極夏彦著のミステリー小説で、百鬼夜行シリーズという名前で親しまれる人気シリーズの2作目だ。本作は日本推理作家協会賞を受賞している。探偵役の中禅寺は普段は古本屋を営んでいるが、同時に妖怪を祓う陰陽師という顔も持つ。中禅寺の友人たちが事件に巻き込まれ、相談を受けた中禅寺が謎解きをするのが定番である。事件の様相や犯人の妄執を妖怪に喩え、「憑物落とし」と称し巧みな話術で事件を解決に導いていくのがシリーズの醍醐味となっている。

本作は、一見無関係の話が並行して書かれ、話が進むにつれて複雑に絡み合っていく。中禅寺の友人である刑事・木場は女学生・加奈子の列車事故に居合わせ、重症の加奈子に付き添って病院まで行く。そして数日後加奈子に誘拐の予告状



記事執筆者のコメント

長いのでとっつきにくい部分もあります。映画化や漫画化、アニメ化もされているので、そちらで楽しんでみてもよいと思います！

が届く。木場ら警察による厳重な警備の中、絶対に不可能な状況下で加奈子は煙のように消え失せてしまう。一方、中禅寺の友人の記者・鳥口は世間を騒がせている武蔵野バラバラ殺人事件を調べ始めた。調査を進めていくうちに鳥口は最近流行っている新興宗教と関連があるのではないかと考えるようになる。加奈子誘拐事件の真相とは？バラバラ事件の犯人は？複雑に絡み合った事件がこの後いかに解かれるのか。終盤はページをめくる手が止まらない作品だ。

かなり長めの小説ではあるが、緻密な構想と斬新なトリックは読者を飽きさせない。登場人物たちもキャラが立っていて楽しめる。ミステリーの好きな人はぜひ読んでみていただきたい。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



真都。 のおすすめ漫画

**かぐや様は告らせたい**

赤坂アカ

「恋愛は戦！好きになったほうが負けなのである!!」特徴的なこのフレーズから始まるのは、今超大人気の漫画『かぐや様は告らせたい』である。舞台は富豪名家に生まれた秀才たちが集う秀知院学園高等部。主人公の四宮かぐやと白銀御行は互いに明らかに惹かれ合っているにもかかわらず、どちらも告白できず「相手を告らせる」ための駆け引き「恋愛頭脳戦」をはじめめる。

この作品の魅力は、なんといってもキャラクターたちの面白さだと私は思う。主人公のかぐやは勉学・芸事・武芸において優れた才能を持つ秀才だが、超がつく程の箱入り娘であるが故に一般常識が欠落しており、時折その言動で周囲を困惑させる。もう一方の主人公御行は毎日猛勉強を続け学園模試で1位を取り続けている努力型の天才だが、洞察力が高ず



記事執筆者のコメント

作者の赤坂アカ先生は他にもいくつかの作品に携わっており、天才ストーリーテラーとして名高い漫画家だ。そんな彼の描いた恋愛頭脳戦、ぜひご覧あれ。

ぎるが故によく勘違いをして会話に齟齬を生んでしまう。この他にも、ド天然で行動が予測不可能、その言動でかぐやと御行の恋愛頭脳戦を崩壊させる藤原千花、根暗な発言で周囲を引っ掻き回す、ゲーム好きで陰キャオタクの石上優、かぐやの侍従で常識はずれな主人の言動に冷静にツッコミを入れる早坂愛など、個性的なキャラクターたちが2人の恋愛頭脳戦を盛り上げてくれる。また頭脳戦が繰り広げられる状況も、映画館、花火大会、千花作成のすごろくのプレイ中など様々であり、その時々で違った駆け引きが展開されていくので、10巻、20巻と読んでも飽きの来ない作品になっている。

この作品はアニメ化、実写映画化もされており、つい最近新作アニメの制作も決定した。今乗りに乗っているこの作品、ぜひ手に取ってほしい。

はみだし  
すてーじ

彼岸島という漫画がめっちゃ面白くておすすめ。  
⇒気になっていた漫画なので今度読んでみます

(葉・3 臆病な白起)  
(鱗祭にぴったりのはみだしありがとうございます！；編)



まな板 のおすすめCD

## Crack up!!!!

ROF-MAO



記事執筆者のコメント

目覚ましにこのアルバムの曲をセットすると朝から元気になれます。執筆者が個人的に一番好きな歌詞は「攻撃こそ最大の攻撃!」です。

無人島に行ったVTuberがいる。2次元で活動しているはずの彼らは画面を飛び越え、首都高を走ったり忍術修行をしたり、時にはバンジージャンプで空も飛ぶ。けれど、ひとたびマイクを握れば歌でファンを圧倒する。そんな愉快で規格外な彼らこそ「ROF-MAO」。今回紹介するアルバム『Crack up!!!!』の主役だ。

ROF-MAOはVTuberグループ「にじさんじ」に所属する、加賀美ハヤト/剣持刀也/不破湊/甲斐田晴の4名が集った男性ユニットである。体を張って企画をこなす普段の様子から、芸人集団と呼ばれることもしばしば。老若男女に愛されることを目標に活動しており、本アルバムは彼らの歌の魅力が存分に詰まった1枚だ。

4人のユニゾンと疾走感に心が躍る『New street, New

world』、間奏がほぼなく勢よく進み続ける『前進宣言』、無人島のサバイバル経験から本人たちが作詞した『むじんとうのうた』。聞いているだけでテンションが上がる曲ばかりだ。「この世界に止められるな!」と力強くリスナーを鼓舞したかと思えば、急にわざとらしく口説き文句を歌って曲中でツッコミを入れられている。アイドルであり芸人である彼らのエンターテインメントを存分に味わうことができる。さらに、歌詞やMVに今までの活動を通してROF-MAOメンバーが作ってきたネタや個性が散りばめられており、彼らを知れば知るほど面白く曲を聴くことができるだろう。

「駆け抜きたい! 駆け抜きたい! これしかないに決まってるんだ!」。1歩踏み出すのに背中を押して欲しい、そんな時に彼らの声を頼ってみてはどうだろうか。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



モアイ のおすすめCD

## HELP EVER HURT NEVER

藤井風



記事執筆者のコメント

ちなみにわたしが一番好きな曲は『死ぬのがいいわ』です。メロディーももちろんですが、歌詞が冒頭からキレキレで最高なのは是非。ライブ行きたい!!

藤井風は2020年にデビューしたシンガーソングライターだ。ストリーミング累計3億回再生を突破したヒット曲『きらり』や、デビュー前からYouTubeに投稿していたカバー動画などで藤井を知っている方も多いだろう。今回取り上げるのは、そんな彼のファーストアルバムである。

このアルバムのジャケットには、目を閉じた藤井のモノクロ写真が使われている。この写真が象徴するように、このアルバムは、藤井が自身の内面と向き合い、葛藤し、それを飾ることなく表現した作品だ。例えば、『何なんw』という曲では過ちを繰り返す弱さが、『罪の香り』では弱さとの葛藤が描かれている。

そして、この作品で是非注目してほしいのは、藤井の言葉

選びだ。藤井の歌詞は、平易な言葉が用いられておりとっつきやすいのと同時に、とっかかりのある個性的なものになっている。例えば、前述した『罪の香り』という曲では、「おっと」「抜き足差し足忍び足」といった、馴染みがあり意味は簡単に分かるものの、歌詞ではあまり見たことがないような言葉が自然に用いられており、聞き手は意表を突かれ印象に残る。このような、肩肘張らないナチュラルさと、遊び心に富んだ自由自在さを兼ね備えた藤井の魅力が、このアルバムからは感じられると思う。そんな藤井だからこそ、自身の弱さや葛藤といったシリアスなテーマの歌詞も、軽やかに、そしてユニークにメロディーに乗せられるのではないだろうか。彼にとって初めてのアルバムであるこの作品を聴いていると、これから藤井風がどんな曲を生み出し、どのように歩んでいくのか、きっと楽しみになるだろう。

はみだし  
すてーじ

洗濯が面倒でためていたなら、靴下が足りなくなりました  
⇒石田純一さんリスペクトでいきましょう

(農・3 ぷー親方)  
(洗濯めんどくさいですよね;編)